

那須地域 ～時代を超えて持続的発展を目指す那須の農業～



地域農業の現状と課題

那須地域は、那須連山等の裾野域を中心に、酪農をはじめとする本州一の畜産基地が形成され、中南部の扇状地では、那須野ヶ原を代表とする広大な水田が広がり、米麦を中心とした大規模な土地利用型農業が盛んに営まれているほか、「那須の白美人ねぎ」や「那須の春香うど」などのブランド野菜など、地域に適した園芸生産が行われています。

一方で、水田農業においては、10ha以上の経営体の増加など一定の規模拡大が進んでいるものの、生産者の高齢化や後継者の不在などにより、地域の担い手不足が懸念されています。

畜産においては、農家1戸あたりの飼養頭数の増加に伴い、国際情勢に左右される飼料価格の変動等により経営が大きく影響されることから、効率的な飼養管理や飼料作物の生産拡大が必要となっています。

また、豊かな観光資源に恵まれ、観光客をターゲットとした紅茶やチーズ等6次産業化商品の開発及び地域の食・文化と結びつけた都市農村交流の取組が進んでいますが、さらなる誘客促進を図るため、那須地域の特徴ある取組の磨き上げや情報発信力の強化を進める必要があります。

計画の推進方向

- 那須野ヶ原水田農業の確立
- 那須地域における持続可能な畜産経営への取組「畜産力の強化」
- 地域資源を生かした農村地域の活性化

地域戦略1 那須野ヶ原水田農業の確立

水稲+ねぎなど那須地域にあった家族労力を中心とした安定複合経営の確立を支援するとともに、集落営農組織の連携や合併を推進し、経営強化を図ります。

また、土地利用型経営の所得向上を図るため、農地の大区画化や経営発展に合わせた先端技術の導入による作業の効率化及び良質・良食味米の産地である地域の特徴を生かした米のブランド化を推進します。

項目	現状(2019年)	目標(2025年)
水田を活用した園芸生産者数	234名	300名
集落営農組織の合併(再編・連携・組織化)数	—	3
新たな水稲品種「とちぎの星」の導入面積	206ha	400ha
10ha以上の土地利用型経営体数	402経営体	475経営体
ほ場整備事業実施地区数	4地区	8地区
スマート農業技術導入経営体数	59経営体	150経営体

成果指標



広大な水田が広がる那須野ヶ原

主な取組

- ◆ 水稲+ねぎなど地域にあった水稲+園芸複合経営の確立
- ◆ 実需が求める良食味米生産技術の確立と省力・低コスト稲作技術の普及
- ◆ 人・農地プランでの話し合いによる担い手の確保・育成及び農地の集積・集約化

## 地域戦略2 那須地域における持続可能な畜産経営への取組「畜産力の強化」

水田における飼料作物の生産と利用を拡大して、耕畜連携による資源循環型農業を推進するとともに、飼養管理の省力化・効率化を図るためにスマート農業技術導入を推進するなど、畜産力の強化を図ります。

	項目	現状(2019年)	目標(2025年)
成果指標	畜産経営におけるスマート農業技術導入割合(経営体数)	9% (75経営体)	14% (100経営体)
	規模拡大及び新規就農(参入)農家数	5戸	20戸
	水田における飼料作物(稲ホールクロープサイレージ等含む)等栽培面積	4,587ha	4,700ha



ホールクロープサイレージ用稲の収穫

主な取組

- ◆ スマート農業技術導入による畜産力の強化・効率的な飼養管理技術の確立支援
- ◆ 規模拡大農家、新規就農者や新規参入者等担い手の確保・育成
- ◆ 生産基盤強化のため水田を活用した飼料作物の栽培利用の拡大

## 地域戦略3 地域資源を生かした農村地域の活性化

那須地域の多彩な地域資源を最大限に生かした農村地域の活性化を図るため、農村拠点施設の機能強化等を支援するとともに、食を中心とした「農・宿・湯・遊」をつなぐ仕組みづくりと地域組織等の育成を進めます。

	項目	現状(2019年)	目標(2025年)
成果指標	農産物直売所や農村レストラン等の利用者数	343万人	380万人
	将来ビジョンを作成する拠点施設数	2施設	7施設
	都市農村交流に取り組む地域組織数	6組織	11組織



子ども向けの農業体験イベント

主な取組

- ◆ 拠点施設の機能の多様化と組織間連携等による農村拠点施設の機能強化
- ◆ 地域資源を生かした都市農村交流の促進に向けた組織の育成
- ◆ 新規就農者や農業後継者等による「仲間づくり拠点」の形成による魅力ある地域づくり活動の推進